(その三)

工場又は事業場の名称	日本曹達株式会社 千葉工場

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア　計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
3 1	5 1	5 2	5 3						

その他（19，29，39，49，59，99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

備考　3（2）に記載する対策も含めて記載すること。

イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
3 1	5 1	5 2	5 3						

(その三)

工場又は事業場の名称	住友化学株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア　計画年度に実施する対策の内容

(1) の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
５　２	５　６	５　９							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策　3

①当千葉工場の高圧ポリエチレンのペレットサイロから排出される酢酸ビニルについて、サイロの排出ベント配管を、ボイラーの燃焼空気に接続して酢酸ビニルを燃焼させている。平成１９年１０月に工事が完成し、平成２０年２月より処理を開始した。

②高圧ポリエチレン工場の酢酸ビニルタンクのベントラインをフレアーラインに接続して焼却する工事が平成２４年２月に完成して、９月から使用開始した。

令和元年度増加

①　令和元年６月に完成する触媒工場

姉崎地区：ノルマルヘキサン、トルエン

②　令和元年１１月に完成する触媒工場

袖ケ浦Ｉ地区：メタノール、トルエン

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1) の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
５　２	５　６	５　９							

(その三)

工場又は事業場の名称	三井化学株式会社 市原工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア　計画年度に実施する対策の内容

(1) の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5 1	5 2	5 3	5 4	5 5					

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1) の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 3	3 1	3 2	3 4	5 1	5 2	5 3	5 4	5 5	

（その四）

工場又は事業場の名称	三井化学株式会社 市原工場

3　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)　基準年度における処理回収率等

	基準年度 平成　12年度
使用量 （kg／年度） （１億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。）	5.3×10^9
排出等の量 （kg／年度）	320000.
処理回収率 （%）	100.

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数（基）
0

備考

1　この項の提出は任意であること。

2　基準年度は、２(1)の基準年度と一致させること。

3　使用量及び排出等の量は、２(1)の基準年度におけるものと一致させること。

4　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。

｛（使用量－排出等の量）／使用量｝×１００

(2)　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
23	31	34	51	52	53	54			

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

備考　この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社三井E&Sホールディングス 千葉総合事務所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア　計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 2	1 9	2 2	5 4						

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策２について

建造船居住区内（屋内）で使用する塗料の一部を水性塗料へ切替え

油性塗料についてもVOC発生量の少ない塗料への切替え、導入

※ 国際海事機関による船舶建造のルール変更により、平成24年以降の建造船は塗装基準の強化

（塗装膜厚が従来の1.4倍）により、塗装面積あたりの塗料の使用量は増加している。

対策

建造船の塗装面積に占める割合の多いバラストタンクについては、国際ルールに合わせて

塗膜厚の検査が厳しくなった。　塗膜厚不良で再施工を減らすため、塗り重ねた色で

塗膜厚が分かる塗料に切替え、再施工を削減した。

船底部などに使用する油性塗料についても、低VOC塗料を導入する事で、VOC発生量を

削減した。

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1 2	1 9	2 2	5 4						

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社三井E&Sホールディングス 千葉総合事務所

3　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)　基準年度における処理回収率等

	基準年度 平成１３年度
使　用　量 (kg／年度) （１億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。）	4100000.
	×１０
排出等の量 (kg／年度)	3900000.
処理回収率 (%)	4.9

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数（基）

備考

1　この項の提出は任意であること。
2　基準年度は、２(1)の基準年度と一致させること。
3　使用量及び排出等の量は、２(1)の基準年度におけるものと一致させること。
4　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。
{（使用量－排出等の量）／使用量}×１００

(2)　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
22	54								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

備考　この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社プライムポリマー 姉崎工場

(2)揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5 3									

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

競争力強化の一環として、昨年度も製造施設の停止・廃止を行っており、VOC排出量は基準年度と比較して50%以上の削減を達成している。

以上

備考 3(2)に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
5 3									

（その四）

工場又は事業場の名称	株式会社プライムポリマー 姉崎工場

3 基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) 基準年度における処理回収率等

	基準年度 平成12年度
使用量 (kg／年度) (1億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。)	7.2×10 08
排出等の量 (kg／年度)	330000
処理回収率 (%)	100

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数 (基)
0

備考

1 この項の提出は任意であること。
2 基準年度は、2(1)の基準年度と一致させること。
3 使用量及び排出等の量は、2(1)の基準年度におけるものと一致させること。
4 処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字2桁で記載すること。
{(使用量－排出等の量)／使用量}×100

(2) 基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
53									

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

備考 この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	ＢＡＳＦ出光株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア　計画年度に実施する対策の内容

(1) の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
５　４	５　５								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

ＢＡＳＦ出光株式会社　千葉工場では、基準年度以前から、直接的な燃焼処理や触媒を使った接触酸化により、揮発性有機化合物を炭酸ガスと水蒸気に変え、大気中への排出抑制に努めている。

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1) の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
５　４	５　５								

（その四）

工場又は事業場の名称	ＢＡＳＦ出光株式会社 千葉工場

3　基準年度以前から実施している揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)　基準年度における処理回収率等

	基準年度 平成１２年度
使　用　量 （kg／年度 ） （１億キログラムを超える場合は、下段に指数表示で記載すること。）	２８０００００． ×１０
排出等の量 （kg／年度）	７．１
処理回収率 （%）	１００．

基準年度までに、浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに改造した固定屋根式タンクの基数（基）
0

備考

1　この項の提出は任意であること。
2　基準年度は、２(1)の基準年度と一致させること。
3　使用量及び排出等の量は、２(1)の基準年度におけるものと一致させること。
4　処理回収率は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。
{（使用量－排出等の量）／使用量}×１００

(2)　基準年度以前から実施している対策の内容

基準年度以前から実施していた対策であって、現在も実施しているものについて、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
５４	５５								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

備考　この項の提出は任意であること。

(その三)

工場又は事業場の名称	佐藤産業株式会社 成東工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア　計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1　2	2　1	2　3							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
1　2	2　1	2　3							

(その三)

工場又は事業場の名称	コスモ石油株式会社 千葉製油所

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア　計画年度に実施する対策の内容

(1) の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
4 1	5 2	5 9							

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

１．対策１として原油、揮発油（製品ガソリン、中間ガソリン、ナフサ等）、ＪＥＴ燃料油のタンクは全て浮き屋根式あるいは内部浮き屋根式であり、ＶＯＣ対策は本条例の基準年度以前に全て完了しており、これらのＶＯＣ対策済タンクの維持管理を確実に実施する。
２．対策2の第１陸上出荷場（ローリー出荷）及び第２陸上出荷場（タンク貨車出荷）における揮発油の積み込み時に発生するＶＯＣ対策として、ＶＯＣ回収装置（吸収溶剤灯油）を既に設置（第１出荷：昭和６３年、第２出荷：平成２年）しており、現在はこれを維持・管理している。
３．対策3のその他として、ＶＯＣ回収装置でのＶＯＣ回収量を少しでも上げる為に、夏期には当該設備に冷却散水を行いＶＯＣ排出抑制に取り組んでいる。

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1) の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
4 1	5 2	5 9							

(その三)

工場又は事業場の名称	大洋塩ビ株式会社 千葉工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア　計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 9	3 1	5 1	5 9	9 9					

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

【対策１】について

・安定操業により現状を維持する。

【対策４】について

・廃液処理塔を設置し、スチームストリッピングにより排水中の塩ビモノマーを回収する。

【対策５】について

・タンク開放点検前に窒素で置換し、塩ビモノマーガスを回収する。

イの【対策５】について

・タンク開放点検前に水張りを実施し、塩ビモノマーガスを回収しました。

・タンク開放点検前に窒素で置換し、塩ビモノマーガスを回収しました。

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 9	3 1	5 1	5 9	9 9					

（その三）

工場又は事業場の名称	東洋スチレン株式会社 五井工場

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア　計画年度に実施する対策の内容

(1)の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 9	3 1								

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

【対策１】について

生産工程からの発生（揮散）を減少させる。

備考　３（２）に記載する対策も含めて記載すること。

イ　目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1)の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施しようとする場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 9	3 1								